

第 125 回富山大学眼科臨床カンファレンス

ーハイブリッド開催(現地+Zoom)ー

謹啓 残暑の候、先生方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第 125 回富山大学眼科臨床カンファレンスを下記の要領で開催いたします。

ご多忙中とは存じますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。 謹白

開催日時：令和 8 年 9 月 12 日（土）PM 6：30～PM 8：30

会場：富山県民会館 611 号

当日、現地+ライブ配信にて講演会を開催します。ネット通信トラブルに対応できない場合がありますので、できるだけ現地参加をお願いいたします。Zoom（オンライン）を使用しての参加も可能です。Zoom 参加される方は、事前に下記 QR コード・URL より参加申し込みをお願いいたします。申込受付返信メールは大変申し訳ございませんがいたしておりません。

ご了承ください。申込み URL <https://forms.gle/XVjGRGrE5xBNoyUJ6>

Zoom 申込期間は、開始：9/2(水)～終了：9/9(水)までといたします。

【申込必要事項】

① 氏名、② 所属、③ メールアドレス、④ 専門医番号をご記入ください。

Zoom 申込者には URL、ID、パスワードをメール送信いたします。

【参加費について】

参加者は、ID、パスワード等のメール送信の際に振込情報をご案内いたします。

参加費 富山眼科集談会会員：無料、非会員：2,000 円



プログラム

【現地での講演】

1. 【特別講演】(PM 6:30 ～ PM 7:30)

座長 丸山 和一 先生（富山大学眼科学 准教授）

「エビデンスを社会へ届ける

ー子どもの目を守る眼科の組織力とアドボカシーー」

近藤 永子 先生（眼科三宅病院 副院長/日本眼科医会 常任理事）

2. 【特別講演】(PM 7:30 ～ PM 8:30)

座長 林 篤志 先生（富山大学眼科学 教授）

「医師が知っておきたい AI と医療の現在地とこれから」

奥村 直毅 先生（同志社大学生命医科学部工学科 教授）

* 本会は日本眼科学会専門医制度認定事業（事業番号：59127）です。

取得単位数：現地/1 単位、Web/0.5 単位です。

* 本会は日本医師会生涯教育制度における 2 単位（12,0）カリキュラムコードを取得することができます。

主催 富山眼科集談会

【要約】

エビデンスを社会へ届ける

— 子どもの目を守る眼科の組織力とアドボカシー —

近藤 永子 先生

(眼科三宅病院 副院長／日本眼科医会 常任理事)

本講演では、近年の日本眼科医会における子どもの目の健康対策の取り組みを紹介する。特に、3歳児健診への屈折検査導入を、エビデンスに基づくアドボカシー活動の代表的な事例として取り上げる。また、近視予防やデジタル端末利用に関する啓発資料の作成、「こどもの目の日」の制定と社会啓発活動などについても紹介する。

これらの活動を支えたのは、アカデミアが生み出すエビデンスと、医会が有する現場力・地域ネットワークとの連携である。学会と医会の双方に多くの眼科医が関わる眼科の組織力は、研究成果を社会実装する上で大きな強みとなっている。子どもの目を守るために、診療室の中だけでなく社会に向けて眼科医ができることについて、皆さんと考えてみたい。

医師が知っておきたいAIと医療の現在地とこれから

奥村 直毅 先生

(同志社大学生命医科学部医工学科 教授)

AIの進歩により、医療はすでに大きな変化の中にある。画像診断や創薬では、人間を上回る成果も報告されており、「医療が大きく変わるのではないか」と感じている医師は多いと思われる。一方で、変化はあまりに速く、日常診療の中にいつ何が入ってくるのか、あるいはすでに入り始めているのかを整理して理解することは容易ではない。

本講演では、医療機器、創薬、AIによる診療といった分野ごとの現状を俯瞰しつつ、規制や臨床試験といった医療特有の制約も踏まえ、今後10年で何が起こり得るのかを考える。あわせて、日常の臨床や研究の中で効率的にAIを活用するための具体的な方法についても紹介する。本講演が、AIによって医療がどのように変わっていくのかを考える一助となれば幸いである。